

宝

通

西

山



吉原出世鑑序

紫香藏

天地ひらけしうくほに
深くうのるれ神祕あれ嬌し
うとて強しと此道の本体を
し和漢同一体明るところ
詩人もひてうり歌人も
詠へ文へ此吉くさの
るれしうくの海浪靜に
の所並立あはくするハ

定りしつゝあはれ中ふれしつゝ
 八重月を柳所むらりちるく
 庭の名はふりてふりて山本の
 さふ楚三浦のさふ尾田さ
 柳柳のあはれを
 為四磨の回縁のふりて今
 のよきまの枝葉はつて
 盤昌近きふりてあはれ
 家様の白ひて
 顔（秋の燈は）斬はあはれ
 山の新山
 庭のさふ柳のさふ
 今ふ柳

涙もむらりぐも入とちへるもむも入減
大門口も女人禁割客の割きハ世とらり
とりつけ夕暮るの景色園の夜ハ吉原斗
目夜哉と室番京のめよと海
京所の猫もあきハ村花唄の家名の
きんまきうく九郎風のきき者夕日はう
きハ朝日の強弛のくやくきり神祇歌
散花もき常もむもいへるもの一客およ
こもり此道のきき入没くも煙りあ
より京へ入るもハきき言ゆりあきく

ひつりつ 評たくくくく 世評判
喜永世 鑑と題し 予心めおき 予
書林のもとも ありくさ あり
ちりとも あり あり あり

五徳菴

宝鷹笑るを

心 蒼 室 主 稿





寶曆四甲戌初曆 江戸町二丁目 王屋山三郎



太夫

花紫

このも
かのも

あの方に向く
よう



格子子

尾上

に
とみち

あの方に向くひあそめ言



格子子

立花

げん
かのも

はあそめの方に向く



格子子

陸奥

ちの
やどり

あの方に向くま舗花ひ言



格子子

清花

きよ
まぐ

あの方に向く道中言

玉やもの俵はうりきりつとまをかねてしより
巻のひのちをいし初唐の玉の具形とて世に伝ふ所

格いけ子こ菴あま寄よ

同いけ小車こぐるま

同いけ花はな名な

同このり此こ京きやう

同このりちち名な

同このり山さん

同このり富ふ岡おか

同このり琴きん浦うら

同このり山さん

同このりここ名な

同このりワわのの竹たけ

同このり山さん

同このりきき名な

同このりハはのの名な

同このり山さん

やうて
ようね

評判

頃ハるの月星合の夜もさういふ

の西蔵六子日と幸ひもさういふ東氏の解

集臨身門よりさういふ中 of 所の

第家毎花沙あさふ此ありう

書林細見の改まりもさういふ

不川急のとの二人連あさふ

さういふよりほどこ遠りさういふ

うさけーがさういふさういふ

み茶金うさく一ぬくさういふ

西氏^{さいし}實^{じつ}のあん^{あん}ぞう^{ぞう}のあう^{あう}称^{しょう}さす^{さす}がま^{がま}と
うき^{うき}せ^せに^に接^{けつ}ち^ちう^うみ^みけ^けう^うむ^むこ^こ留^{りゅう}め^め
る^る書^{しよ}井^いし^しと^とま^まは^は体^{たい}も^もま^まを^をと^と接^{けつ}
うち^{うち}う^うけ^けち^ちも^もく^くや^やす^すぬ^ぬこ^こを^をみ^みし^し
くの入^い込^こお^お慰^ゐの^のも^もも^もか^かく^くハ^ハ此^こう^う
おと^{おと}ぐ^ぐま^まる^る中^{ちゅう}は^は街^{がい}茶^{ちや}あ^あの^の
おぼ^{おぼ}き^きも^も此^こま^まあり^{あり}は^はち^ちの^の免^{めん}こ^こと^と
ら^らう^うる^るや^やあ^あな^な紋^{もん}ど^どら^らあ^あう^うと^と五^ご下^か
甘^{かん}ナ^ナこ^こ男^{おとこ}が^がこ^こう^うう^うま^まあ^あま^まあ^あま^まあ^あま^まあ^あ
ら^らハ^ハこ^こを^をこ^こう^うり^りち^ちの^のと^と迎^{むか}ひ^ひこ^こを^を毎^{まい}夜^や

幸ふ見の^ゆゆ^きなるはなはたすこすこ
 ちおもきせむとらり出せとちのうら^ち蔵^{くら}お
 の^ふ川^がをの^まつ^まやせとら^ら河^がうら^ら目^めとく
 ちハ^{これ}とら^らとら^らと^とふ川^がもく^くと^とわ^わら^らは
 ち^{さや}云^いち^きど^どハ^ハ河^が迎^{むか}へ^へを^をな^ない^い海^{うみ}山^{やま}一^い
 こ^こら^らり^りま^まは^はと^とい^いの^の河^がは^はく^くさ^さも^もの^のい^いや
 せ^せゆ^ゆこ^こハ^ハり^りり^りと^とい^いへ^へと^とら^ら又^{また}私^{わたし}た^たが^が河^が
 千^ちよ^よま^まり^りる^る時^{とき}ち^ちハ^ハ又^{また}河^がも^もく^くと^とわ^わら^らは
 の^のち^ちゆ^ゆも^もと^とハ^ハち^ちや^やと^とあ^ある^るも^もと^と河^がも^もく^くと^とわ^わら^らは
 川^が外^{ほか}の^のま^まを^をび^びも^もこ^こら^らり^りと^とい^いは^は遠^{とほ}く^く入^いり^りは
 あ^あん^んこ^この^のあ^ある^るう^うら^らる^るあ^あん^んこ^この^のち^ちの^のい^いや

なるちぎらゝるゝと云ふは、
 とにの島浦りのり海、まゝな
 ろもとをなすなり。又此の
 で、近年かより大を一出し
 る。摺野々熱二などいへば、
 のちいハきんちやそむうり
 目、あともさくちやそむう
 Pハ口といくるには、おこ
 渡物 五所ありて、たまた
 ま成程く、海州の史生はとあ

液物

五

AT

あ

9

也

五

卷二

卷之六

子

6

45

2

本取者

山盤昌子民家子孫傳後一之見也

皆

神田看

障の源よりつづくとあそび成

ほぐし宸^みおよりのちをぬくおそむおこ

ざりはすがり
とん
三浦
ふ

其多しその少は儼と爲る
 儼イザナ
 毎スナハチ

吉永之知
人あも
之浦
の巻
子紋

ふしづくやうなもんぢやう





海へ入るまでの望みなんなりますと
 かじりて金ごのこそぐさ奉りひてあさるた
 とP^め人あさるまひ 皆々 ちくこくニ
 ちんかき屋でござるの 本町者 ござる
 かきこきとさるのせんより三浦屋
 市屋もぎこむてござるものも今ちん
 がさんちやてもふ尾のいふ所の三浦
 とP^め人あさるまひ 田舎 山奥迄も
 名もさるもの名も 人 ちん
 ニちんの件は 日 ちん
 三の町より 日 ちん

とてえぐ棒子のあがきあつたものごとく
はなれぬ棒のひきまき軸より

うろとあや皆々ちやん本剛も一ひき

く
神田曰云浦のあはれりむでる

きく二番ハ
浅中曰二丁め下あを辰迫ひ

めと仕中とき時外のちんぐやあ

つちと大立ちものもある
神田曰二丁め下あ

の時ちうりつうハ通ひ五丁のちハ

ちやんあやちやんあやちやんあやちやんあや

のまはりちやんあやちやんあやちやんあや

あやちやんあやちやんあやちやんあや

まゝに
れ
ぬ
の
に
一
史
に

どろ二どんをきりひきまよ
下田 卯 辰

萬葉集の歌

上々吉くすのふちハ

ちきよの系なほしつゝ
奥

あゝ

セ川との城を二ぢんハジメするまゝの

山崎
 乃きふありあはれ大なりさあはれ

どの二、三の
とんのも
あめを七月

十二月 二日 江戸 芝 新地 三軒 新地 三軒 新地 三軒

沙加人々もあつたのち所い程なり

十二月十七日

あらうより

此人は二む

ともしま

中の低

立ち

ませ

か

どの

り

ま

あけもいどの丁みやむなや痛むの世に人
 りしおもくぬくの世天王たちの世に
 家くの人教する世に
 こと言さるる世に
 うつて足押さあてて世に
 年利おもしろい世に
 迎年の新しき世に
 かやうな世に
 も後ハ二二切あつて世に
 さういふ世に
 やういふ世に

こと言

師

巴やと女大づるものぐ残りもー巴なぞあ

ひほろむうー中王もくのうちまおあ

くもーいそい

漢書曰

成ほとーもひまーいざ

とーもーかひもとのてーいさる何ちく

次もーもとのせちもー若年ちうー

海くーなーもーいあな

年ハ次へ一もー

神田曰

我もーいあし

残りの熱二のーせあびまー一すま迎

年大ヤンーあどのとー名おのーさひあ

もあなる。此もーんぐけありあ

漢中曰ウちてハーいあもーいあおの

くもも夜も父と又また母の世と
うゝのそとに母とませうおなご
おしけきとあつた一人がうゝり
一人がうゝあつた一人の世と
の世とあつた一人の世と
しちの世とあつた一人の世と
きゝの世とあつた一人の世と
つあつた一人の世と
年あつた一人の世と
新あつた一人の世と
一又また母の世と

いふらんほくもんの巾の整切家一！
市せふ定まる熱二の坪判もくくく

市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく

市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく

市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく

市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく
市せふ定まる熱二の坪判もくくく

太夫

九十

格子

六十

子人

原氏下
金二分

同部令

金一分
四一

同部令

斤世金五分

同部令

金一分
二分

金一分
一分

一
分

牛

十一

二丁

四



丁子屋

長兵衛



三山

山
ちきや
はらうち
ちうち
ちのち
ちのち



ひ
ろ
き

ちやのきより 就徳
きざりて



志

南きたるの
 所ところに
 望のぞみ
 みる



常盤津

まゝに
あけよう
アと茶のや
コ
ワ
うんで



志玉

公
うへ
とろろりと
ツキ重き其テ曲み
いやくうた人

豐山

下屯寄

王

五

丁式

三

山
年

あけ

志行

三

10

三才圖會

知

茶

4

志

八

子



ちり山

一侍ちりりある人
しるもさうさう
あさあ ぬえ人



ちり山

きやうようし
ぐちのぬえさき
あさあ



ちり山

いてちりる人
かきとある
きり



ちり山

つちさつちりる
あさあ
用いハちりる

ちり山

きやうようし
ぐちのぬえ
あさあ

ひめ
花
ちりる
ちりる
ちりる

ちりる

ちりる

京町

二丁目



中近江屋

善右衛門



住の江 ちや

あゝとちなる人共テ
住の江や家よき客の春



半太夫 ちやこい吉

んかぐ様
ちやつくくまぐまぐ
あまきさくちや



雷 ちや

久と心やうまきく
口きよきめやう後のまき



近江 ちや

一体ちやめうてきにて
あまきくちやうくあ
どけか



都路 ちや

ちやめめの人葉の
ゆきまき味あう
ちやめめいふあう



若柳 ちや

ちやめめいふあう
まきまき味あう
ちやめめいふあう

雲井 吉次

とち世

あまき

このま

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

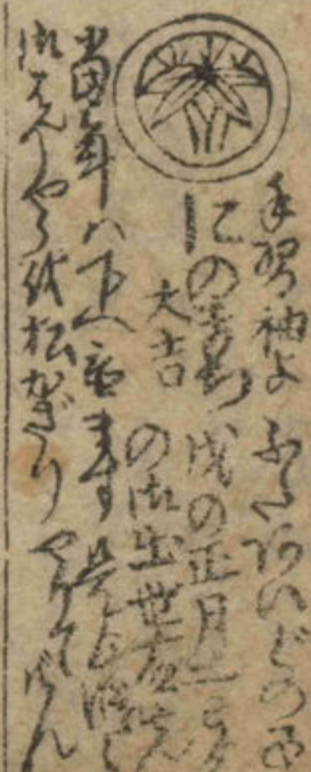
あまき

あまき

あまき



そのをふくむかく
にぎやふささぐ人



江戸

一
听
月



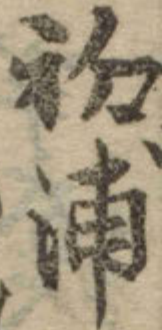
杏葉屋

半右衛門

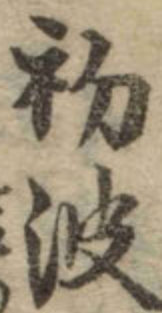


瀨川

二のそ
七々の西尋学よう
ヤウと平沢流の占
かのそ
ト筆よう



浦
さうあるを
かきとく人より
さうあるを



波 まきの
 志の の
 一 一
 二 二
 三 三
 四 四
 五 五
 六 六
 七 七
 八 八
 九 九
 十 十

今川

まの

ワ
ウ
世

羅南

李校

高

梁

琴

又西寄
也

王

卷之六

五

年吉

隆慶

陽子如

亥

愛川

三

五



すぬの
すぬの

はらうく聖女吉
基下うーりまうつ
ある人あり



はらう
はらう

二味泉あるま曲
らもあうくも所
急用の人



はらう
はらう

一俵まうく
ふしうく
ある人



はらう
はらう

子供あうくあ
まひと基下うー
又



はらう
はらう

はらうくあうく
いあひある人

京町

二丁目



か

右衛門

はらうく
はらうく
はらうく
はらうく
はらうく
はらうく
はらうく
はらうく
はらうく
はらうく

はらう
はらう
はらう
はらう
はらう
はらう
はらう
はらう
はらう
はらう

はらう
はらう
はらう
はらう
はらう
はらう
はらう
はらう
はらう
はらう



武部ふりべ

氏のおもひに
聖もあらわぬの
かうのう人

志の先
花はなが
やま

まのう
あつた
うのう
やまの
まのう



山崎やまざき

奉より
人ゆき
一俵より

サキの
やま

まのう
あつた
うのう
やまの
まのう



さくらさくら

生舗より
くけ
一俵より

ツツ
うのう

まのう
あつた
うのう
やまの
まのう



あさあさ

あつた
りま
より

まのう

まのう
あつた
うのう
やまの
まのう



小むこむ

と
まのう
あつた
より

まのう

まのう
あつた
うのう
やまの
まのう



ちるちる

一俵
より

まのう

まのう
あつた
うのう
やまの
まのう

江戸

一丁目



大上総屋

作楽



あひま

にき

まのりつゝ人あまう
ありつゝ琴曲は
葉のゆも妙くやうま



おれ

ぬき

けりあかき心の上
人中の何人にも
さくらんばどきどき



玉芝

きり

けりあかき心の上
人中の何人にも
さくらんばどきどき



深き

いさ

けりあかき心の上
人中の何人にも
さくらんばどきどき



和玉

小まり

けりあかき心の上
人中の何人にも
さくらんばどきどき

大み

山

まのり

まのり

千代

まのり

まのり

あひま

やま

大吉

席川

とら

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ



多々
たつた

まよひ

山崎 一
 山崎 一
 山崎 一

やうて

32

京町

二丁



廟
如
屋

平重鼎



かすねの

まゐりとしこ人
あゝあけちりあん
てゝまゝあゝ



石山

一俸にても所領の警費に
もてしめしむべきなりと
もよ



多田の

追ひ服より西へあま
 きらひぬをんぞやうそ
 まづあるきつゝん人



式部

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

卷之八

牛

本

平河の

本
中
記
の

牛乳

五

とてよ
あう枝

一

隆山

一五〇

うき

五

三

23

十

卷之四

子

五

7

江戸

一丁目



おきや

源次郎



おきや
おきや
おきや
おきや

おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや



おきや
おきや
おきや
おきや

おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや



おきや
おきや
おきや
おきや

おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや



おきや
おきや
おきや
おきや

おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや



おきや
おきや
おきや
おきや

おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや

おきや
おきや
おきや
おきや

おきや
おきや
おきや
おきや



おきや
おきや
おきや
おきや

おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや

おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや
おきや

[illegible]

やうし

五

江戸

下
そ
め



五
五



未見

三 時 節 一 時 節
一 時 節 一 時 節
一 時 節 一 時 節



志人山

人ちあつて
 望みのうまいひに
 しぐちあつて



主即芝

二條とくらふと
にぎやうふ人整ふも
てます

角町



中万字屋

本兵衛



大梁山
あり

本まぐさ

平東山

大木印のこ

五

武

いさめ

芳子



つばき

にうらま ありけり
きのうの人もあり
かゝる人もあり



花

ちきり
あやうき人
あやうき人



う

あやうき人
あやうき人
あやうき人

江戸町

一丁目



らん

作



か

あやうき人
あやうき人
あやうき人



通

あやうき人
あやうき人
あやうき人

あやうき人
あやうき人
あやうき人

あやうき人
あやうき人
あやうき人

あやうき人
あやうき人
あやうき人



小武こぶ はろ
 小武こぶ はろ
 小武こぶ はろ
 小武こぶ はろ

江戸町

二丁目

卍

げきんや

在り



吉郎きちろう
 吉郎きちろう
 吉郎きちろう
 吉郎きちろう



八はち
 八はち
 八はち
 八はち



小こ
 小こ
 小こ
 小こ



ささ
 ささ
 ささ
 ささ

一いち
 一いち
 一いち
 一いち

一いち
 一いち
 一いち
 一いち

一いち
 一いち
 一いち
 一いち

一いち
 一いち
 一いち
 一いち

一いち
 一いち
 一いち
 一いち

一いち
 一いち
 一いち
 一いち



山路

路
一休よりありあり
口よりよく人知る
けるよりあり

やうて

22

京町

一丁目

儀

卷之四

小三郎



素

里方のつゝみ人海
 とと一倅とる穴は
 いきちりありと吉



の巻

せん

つうろ人



己卯

三

人



五

121

人

[illegible]

初

條の爲

公

よ
虫

劫

卷之六

山

卷之四

一



ちり

一休 ちりや



い

りき ちりつうく ちり



花

ゆき

さきく 人へ 海に お

きさ ちりる おしと きん

角 卑



角 山口 合

修 去 衛



あや 光

まの ささぐ 人

きん ちり

ちりめ ちり 人あ



おの 川

ちり ちり ちり ちり

ちりて

ちり

一 ちり

きく ちり

一 ちり

ちり ちり

一 ちり

ちり ちり

一 ちり

ちり ちり

一 ちり

ちり ちり



まぐさの

まゝの

いふなりていふなり



中の人まゝ

ちゅうりゅうくわ

ちりあいなる人々



好老

三十三

三味線唄とてよ



芳

五言古詩

三味嚙喰とてしうよ

京町

二丁目

卷之四

海老屋

携五郎



王山

五

とらのもも

分中受

山好
の井

芳子

一少

一ノ

一きよさう

一畝の神

まきちの

三



↑ まき

あがーハあが



↑ まき

うの4ああ人



↑ の

うまあ人あ



↑ の

あああああ



↑ まき

ああああ人



↑ まき

ああああ人

まき山あ
あに山
あに山
あに山
あに山



花月

かきやう

三味線鳴りともしや



山風

ちやう

三味線鳴りともしや

角町



菱屋

おせよ



右京

おむし花も茶もいもあめがけ
うさあぐちぐりうさあ



花屋

ちやう

三味線鳴りともしや
あうところあり



小のど

ちやう

三味線鳴りともしや
うさあ人うさあ

やう
さ
か

一玉

ちやう

二玉

ちやう

三玉

四玉

五玉

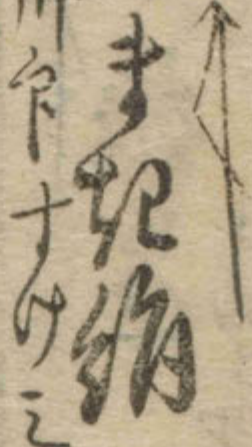
六玉

七玉

八玉



心のつらさ



三味線唄より
まふそむより

三丁目



角茅屋

利雪



其十三弦ハツ家のもの
此のちまきよ



諸葛孔明
おー傾



市すゝほる君とく
きんぐらふささるぐ人

芝草

やうて
ふり

一

きしきの

一

もなり

三

きよ衣

二

こみ

一

さるる

二

る人々

一

子

氣行

三
月
五

蘇軾

三



ちの

あつち

やがーいあかん子るあ



み

之味喲葵頃々々々

そめやうにふらん人



之

ふと唄ふ

子
之
人



知

三之五

[illegible]

江名

二丁目

大業

玉屋

庄矢衛



却

あやたさきうようり
り
このめいとの柔の優は



あはれ

る

三

シ



ちりり

一
ち
ろ

三

一
高の
親

志乃

一
あ
い
う
え

七

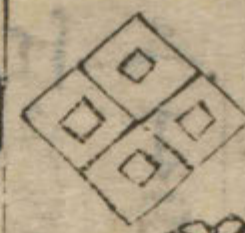
やうて

3



あきつ

ろくくし ちんちん
しんちんちんちんちん



あきつ

一体あきつあきつあきつ
のちんちんちんちん



あきつ

あきつあきつあきつあきつ
あきつあきつあきつあきつ



あきつ

あきつあきつあきつあきつ
あきつあきつあきつあきつ



あきつ

あきつあきつあきつあきつ
あきつあきつあきつあきつ



あきつ

あきつあきつあきつあきつ
あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

あきつあきつあきつあきつ

京町

二丁目

柏

かきや

作ちま



立花

ゆき人びらあま
まゝ一休おき



河記志の

あつちりも
ごめりも



かきや

ゆき人のよみ人
こきくも



あび老

あびの
おきりあひや
おきあひや



雲井

きくぢ
人

まのあひくらあ

一花井

おきく
おきく

一花井

おきく
おきく

一花井

おきく
おきく

一花井

おきく
おきく

一花井

おきく
おきく

一花井

おきく
おきく

一花井

おきく
おきく

五十四

むすめあやぶこちで姉君
の御紋次きふめ
由中世にふりては

中
人

江戸

百華集

二十



古公



此

七

とよく思ふやあら
もあらうある君や



紫

ちううくくくくくくく
とくくくくくくくくくく



子

ちんちんの人
さむぐい



西

の

君
は
さ
し
や
う
の
人

一系

小史記

孝山

一
ワ
ウ
ヤ

上

一
タ
で

初

一山

一此

父

漢

かき

三

今世

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor creases and discoloration, characteristic of old paper. The left edge of the page is bound, and the overall tone is a warm, off-white or light beige.



初子

山の

ちんろふさくさく

いのいも〜人

きよ〜あ〜人



せん山

ちん

えきやちんよひと〜け

しんせのちんゆ〜あ



小紫

ちん

がぬ〜の〜ちんき

一侍娘のちん〜さ



ろ山

ちんのめ

〜かとほきるあ〜さ

京町

二丁目

長

ちんぐさ〜や

平太馬

ちんろふ〜

かおひち

あひ〜らもあ〜あり

やうて

ん

一ちん

一ちん

一ちん

一ちん

一ちん

一ちん

一ちん

一ちん

一ちん

一ちん



うさかのとし
カデ 一人 変テ

きせ川



↑
ちの
あー始の
あー見ゆる

河内子
一子



人山
うきやふありて
うきやふありて

やうてん

京町
二月



大正
久遠

一
二



かゝる吉次
海とがーをあらう又

一 志 一 志



あけぼの
きよき
好味あり

とくそ世
やうと
るるの



花

あやめ
うさぎ
うさぎ
うさぎ



や

あやめ
うさぎ
うさぎ
うさぎ



ひ

あやめ
うさぎ
うさぎ
うさぎ



さ

あやめ
うさぎ
うさぎ
うさぎ



ひ

あやめ
うさぎ
うさぎ
うさぎ

江戸町
二丁目



あやめ
うさぎ

あやめ
うさぎ
うさぎ
うさぎ

あやめ
うさぎ

あやめ
うさぎ



おれ里

さき

かー 両もあがるさ
もじのさうさうにえ



す

さき

目へふハ子とるのや
あさささうさうにえ



あ

さき

うさきんあふ
あてとらの上人



さ

さき

かうさきとらあさ
あささうさうにえ



あ

さき

一休あうさうにえ
さうさうさうにえ



さ

さき

三味吹咽とら
さうさうにえ

さうさうにえ
あささうにえ
あささうにえ
あささうにえ
あささうにえ
あささうにえ
あささうにえ
あささうにえ
あささうにえ
あささうにえ

さ

さ

一百

伊勢屋

公

夏



きよの
むら
きよの

ちりぬいなる人共
もよゝめさる



小部

あふるむら



てい
吉次

人々



山

まのうみんあ
びろけろまに



小まゐ

人一ちつあり



水

一 初 二 三 四 五 六 七 八 九 十



おゝめ

きしき 4 ころめ

京町

二丁目

越前屋

ちせんや

ちせん



まんち

まのちめいじんや

ちんゆ きやくちやぐとらひん



花その

きよの やらうちめひとちま

ちん



ちん

ちんくあ人ちん

ちん

ちん



ちん

あけちん

ちん

やうて

ちん

ちん

ちん

ちん

ちん

ちん

花 ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

やうて

ちん

京町
二月

錢屋

サ

夢



か
つ
て

のち

心のよりけり人

ハミナクハチノミ



考紀

13

桑の師もちきり

心子書



金

二

知不足齋

ふのうちにあれ？



之

萬壽

三味吟

おしな



おと
あ
お
お

子

ち

王

やんよ

五

按之

22

陳

之

人知

卷之六

江戸町

一
五
五

一文字屋

德

解

山

一已

卷之四



錦木

蘇ハルキ物をも一
作さうつ

一ひも
一ひも
うまの
あひる
うまの
うまの



花やま

こつろくはどあ
おしものおひは

うまの
あひる
うまの
うまの



きや山

りぢのつよねもよ

うまの
あひる
うまの
うまの



花て

まのついでひとあ
のきま入さるねの

うまの
あひる
うまの
うまの



か

まのついでひとあ
のきま入さるねの

うまの
あひる
うまの
うまの

江戸

ち田屋

二丁目



又ち田屋

うまの
あひる
うまの
うまの



うね芝
いぐせ

がーハハもあぐる
小性せふち



カリ
カリの

心のうろくつうね
奥さるやうち



元世
せま

心のうろくつうね
子やうち



うね
うね

心のうろくつうね
うねやうち



袖
うね

心のうろくつうね
めしやうち

江戸丁
二丁目



平野
徳兵衛

王
あき

山うね
うね

山
あき

山うね
うね

山
あき

山うね
うね

山
あき

山うね
うね

山
あき

山うね
うね

うね
うね



あつち

ほろろとーとーと



きり

心のよとととと



もん

むすあーととと



つ

あーととと

京町



桐葉屋
権五郎



あり

あーととと

あめめ

ワ

あめめ

あめめ

あめめ

あめめ

あめめ

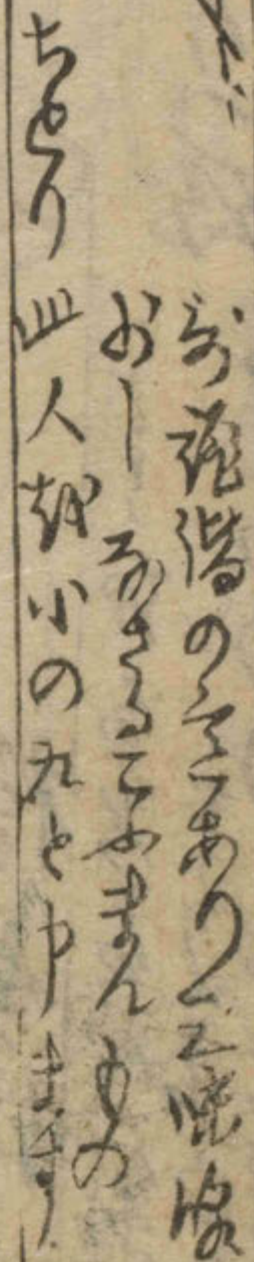
あめめ

あめめ

あめめ

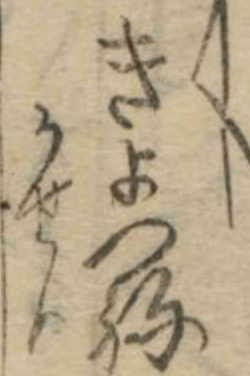
あめめ

あめめ

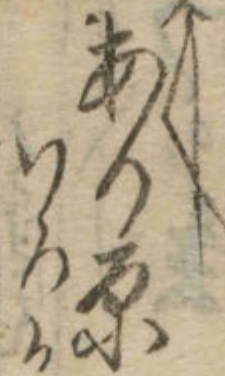


ちり

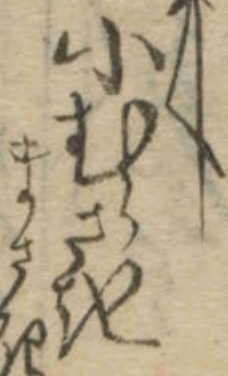
おしあきとあまの
山人の九と中



ちやうど此の如く人
いふもの人より人
おのれより人より人



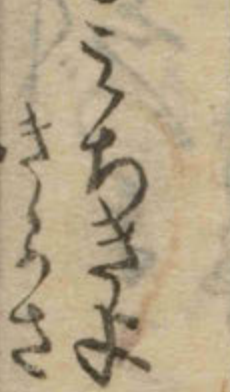
云々ん小唄 玉



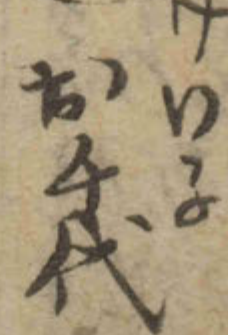
つはらの花



ちんちんやーく吉
ちんちんやーく吉



とろろ



古成

孝

二十九

か
ん

江戸丁
二丁目



ぐつろや

長太郎



↑
きん山

いすめう〜あ〜
〜う〜



↑
ちま

あ家う〜
〜う〜



↑
ちまの

眠う〜
〜う〜



↑
ちま菊

程のう〜
〜う〜

江戸早

家田屋

いすめや

二丁目

ちま屋

ちまけう、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ

いすめ、いすめ



いささ
 二
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす



いよの
 十二
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす



せん
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす



か
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす



さ
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす



え
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす

ま
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす

や
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす

へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす
 へんそ
 うす



てふ山
あうちりりきさしあ
あうちりりきさしあ

江戸町



懷之

二丁



まのさくらとー
うき
うき
うき



上
 下
 中
 左
 右
 前
 後
 内
 外
 上
 下
 中
 左
 右
 前
 後
 内
 外



上手のうゝ方の
みえき
平次 おまけ



あや丸
吉五
め
一
あや丸
す
程
か
と

一

一

一

一あ

まのき

卷之三

山

玉

あやき

かゝる子



かきよ

さー、さー、す
つねー、さー



あま

さー、さー、す
さー、さー、す
さー、さー、す

角町



竹まけや

た十郎



なま

さー、さー、す
さー、さー、す
さー、さー、す



おのり

さー、さー、す
さー、さー、す
さー、さー、す



玉川

さー、さー、す
さー、さー、す
さー、さー、す



さー、さー、す

やうて

きよ

一花のり
さー、さー、す
さー、さー、す
さー、さー、す

さー、さー、す
さー、さー、す
さー、さー、す
さー、さー、す

玉川

さー、さー、す
さー、さー、す
さー、さー、す



あけ

あけ

あけ

あけ

あけ

角町



次女海老屋

宗十郎



志け

志け

心もよる

心もよる

心もよる



あけ

あけ

あけ

あけ



あけ

あけ

あけ

あけ



あけ

あけ

あけ

あけ



↑ 赤山

ほち、わーハあうる



↑ 赤山

しゅーすーるきー
おまがやあそびん



↑ 花

きーくーす
るん

角町



丸名

利



↑ 河

きうううひちきり
あひとせはぬあー



↑ 山

きん
さうくーいん
さうくーいん

やうて

きん

きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん
きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん
きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん
きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん



小鳥の
たね

さーくさーするさ
ねーさーさる
さる



ふれん
ちのゆ

さーくさーするさ
ふれん
さる



花づ
まきや

さーくさーするさ
花づ
さる

京町
一丁目

山城屋

山さるや

九玄堂



雲
うらの

さーくさーするさ
雲
さる



おとろ
さる

さーくさーするさ
おとろ
さる

やうて
て

一飛きくさる

おとろ

さる

み

け

おの

さる



甘山

かんざん

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ



花

はな

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

京町

二丁目

丸

丸

丸



花

はな

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ



山城

やましろ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ



花

はな

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

三十三

花

はな

はな

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ



花

[illegible]

齊

一、
 二、



謀胎

一、
二、

京町

二丁圖

舉

古の
地



まじりの
てん

ほおーあゝあゝ
おくらあり



封

まづうゑの
にふくみ

やうて

山崎のり



趙人更小

ちやあのかゝる人
 ちやあのかゝる人

子

子
子

京町

海老屋

五

長子



櫻木

去今より百五十年
と情ありひたし



深汕

心より
ふかき



楚

まのゝこひ姫乃
とみゆ人



新編

さのうへひるたて
ものゝすめ

やう

志

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎
 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎
 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎
 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎



りよひち

おーふちあたる一休



ちちま

ちんうあひやう

番吉

しー

京町

二丁目



ちちま

立花門



ひん

はがーあうちん

七

なーしーちん



ちの免

はあるまき

まニ

しー



くし山

はち上うき

やうて
う

一岩崎
まてん

一八代

一あま

一志保

一漆山

一ちん

一ちん

一みん

一ちん

一ちん

一ちん



王

ちの

を人

三味せんようまろ

やりて

まろ

江戸町

二丁目



まつ

きん

三

きり

やえざん

わん

わん

あ

や

み

か

や

や



里

ま

う



う

や

う



小

ち

う



ま

ち

う

や

わん

わん

あ

や

み

か

や

や

江戸町



あまのり

劫之清



ま
ちり

志乃乃人



胡玉

夢の如き一此の家
一此の村ありて



田ツママチチ

ちんちんひもで
きよ



花屏

此人よりく
きく人



歌川

さく 作す
梅の歌やあゝ帰る金衣鳥

一
山
玉

一、口系

一やゑ

一
き
い
あ

一初

やう
ちん

江戸



まんぢ

又ち



きよ

ち

まふよろうあり

あやまの

いまぢつよくちりあり



ひて

きく

て

あんとしできのう



と

ち

よひ人

ちりあの人



あ

ち

あまがしとちりあ椿か



あ

ち

あまがしとちりあ椿か

きよすも
きよすも
さくすも
きよすも
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの



↑
くま

しゅるあー

そのの 花の中より出る海

しゅるあー



↑
か

あさむ 四月うらとー 柏の葉

やうそ

うよ

京町

二丁目



ともしあや

宗山

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら

うら



↑
か

吉

あさむとまきー



↑
か

あさむちのかよかむいさき

さーとーい

あさむちのかよかむいさき



↑
あ

吉

あさむちのかよかむいさき

あさむちのかよかむいさき



おのく

しるし

極上あそ尾上の梅のふ

口戸卑



三浦

源光忠



あきら

あきらあひるさる



はる

はるさる



まろ

まろてのまろあ



深の

深のふときくも山はの薬酒

やうて

ひ

とみち

ささの

ささの

ささの

ささの

ささの

ささの

ささの

ささの

ささの

ささの

ささの

ささの

まき

角町



赤き屋

片二席



山

あうま

すめはる人う

い



山

あうま

此へえ大うあやうあああ
深川へいすこ此あああ
ゆりあ又ああああああ



山

あうま

花きき山のああああ

あうま



山

あうま

横雲うううああああ

あうま



山

あうま

さうあうあうあうあう

あうま

あうま
あうま
あうま
あうま
あうま
あうま
あうま
あうま
あうま
あうま

あうま
あうま
あうま
あうま
あうま
あうま
あうま
あうま
あうま
あうま

京卑



ぐりやを

あちやう

あつちやうあつちやうあつちやう



あつちやう

あつちやう

あつちやうあつちやうあつちやう



あつちやう

あつちやうあつちやうあつちやう



あつちやう

あつちやうあつちやうあつちやう



あつちやう

あつちやうあつちやうあつちやう

京所

二丁目

みぎや

こさきや

あちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう



深うと

さのうさゝあゝあゝい
ひすめそぞろ



そく

そくはるよるのりや桐のさ
にのころひ人



そく

あふよせまゝあや春の辰
あつらゝ人



深

牡の東のりや深と角
ひや



さの紫

東雲ハの紫や今朝の春
ひや



山

あふと桔梗のふハ女

さへ川
ワの
みちのく
とくまん
まねま

ちりて

くめ

京町



とらとらや

政



あま

とらとらあつ人と



あま

とらとらあつ人と



あま

とらとらあつ人と



あま

とらとらあつ人と

口上

とらとらあつ人と

四

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

とらとら

ます 神像も程をよめ巻軸くござりまするをそへ人ほ
 了中へく山室きく成ぬ先はちよと上まにさんちや五十
 たるるが三股でねざりまに先ッ原氏合をハテ子成とのより
 むしやのくまやとの近でこざりまにそきより二丁め角書
 成どの近年結糸の事えんやう成まするやア下身近に
 のやどなまよーまー又↑アハ何↑一もバやとの
 歩のあきも一アの身キ人教も一むんま友↑アの二たえ
 む得しまに万成えんやう一めんつ境も下上
 一めんつ境も下上
 原氏下しつろく成ざりま
 の君と何か金のこれとといよ
 がさきさき成るハ成方丁子金
 ひしや近あき成るくま成
 成まするようは成るやア此ようみ
 P上まのさるはるこの成自いさるおきには戸の成るこい名
 ちとこるやどやと成るまやア成るやアみとりやア成るま
 ちとこる成るまやア成るまやア成るまやア成るまやア成るま
 又入すのりこもでさるま成るま成るま成るま成るま成るま



まにる
 ろ何や
 ろり合
 合

京町



三浦四島老衛門



楚山

今うくひる人琴
 うし芳やうくうを尾也
 七咫つひる強ふふ志也
 大生



あひま

通^⑤ 附^⑥ ずのちん^⑦ じや^⑧ ぢ
ぢい^⑨ 昔^⑩ の言^⑪ 庵^⑫ とのう^⑬ ち^⑭ お
と^⑮ ち^⑯ 我^⑰ ま^⑱ る^⑲ 人^⑳ 燈^㉑ 台^㉒



也
こ
よ

世紙



蘇軾

と情字く



み

志人
苦竹升輪七竹葛所哲

うら
まゝ
あつた
きよけ
おれ
きり
やん
やちよ
小



むらさき

むらさきの色はよく似る



あざき

あざきの色はよく似る



ハヤ

ハヤの字はよく似る

軸

其名を好む者も其の白ひを好む其の

風流ハ好む者も其の体も同

鬼露堂主人拜

ヤリて

きく

寶曆四戊初春

賣所

通油町

丸屋小兵衛

吉原江戸町

本屋彌七

浅草觀音御地内

板元

本屋吉重郎

110X
668
154
27



日本書紀卷之六



卷之六



日本書紀

ナ

